

石巻市の復興まちづくり (第42回) -復興5年間の歩み-

被災概要

地震概要

発生日時 平成23年3月11日(金) 午後2時46分
 震央地 牡鹿半島の東南東約130kmの三陸沖(北緯38度06.2分/東経142度51.6分)
 震度 震度6強(石巻市)
 深さ 24km 規模 マグニチュード9.0

津波概要

津波の高さ 津波計による最大T.P+8.6m(鮎川:気象庁発表)
 浸水面積 73km²(H23.4.18国土地理院発表)
 ※市内の13.2%(平野部の約30%)が浸水

<参考> 被災6県62市町村の浸水面積合計 561km²
 石巻市の浸水面積は全国の浸水面積のおよそ13%を占める

被災概要(平成28年1月末現在 []内は全国)

人的被災 死者数 3,178人 [15,893人]
 行方不明者 422人 [2,562人]
 地盤沈下 最大沈降 -120cm(牡鹿地区鮎川)



▲日和山より津波引波時の旧北上川中瀬方向
 (平成23年3月11日17:00撮影)

建物被災	
全壊	20,039棟 [121,803棟]
半壊	13,047棟 [278,440棟]
一部損壊	23,615棟 [726,131棟]
合計	56,701棟 [1,126,374棟]



▲浸水した石巻駅周辺
 (平成23年3月12日10:25撮影)



▲大街道の状況
 (平成23年3月13日9:02撮影)

「将来像」を作成

概要

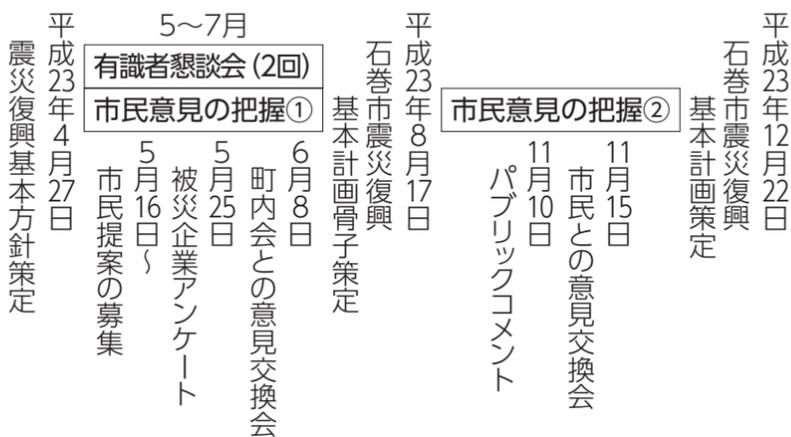
1 石巻市震災復興基本計画とは

本計画は、復旧・再生のための新たな産業創出や減災のまちづくり等を推進しながら、快適で住みやすく、市民の夢や希望を実現する「新しい石巻市」の創造を目指す、復興に向けた道標となるものです。

2 計画の期間

復旧期:平成23~25年 再生期:平成26~29年 発展期:平成30~32年の10力年

策定の流れ



○基本理念



○施策大綱(基本的な方針)

- ①みんなで築く、災害に強いまちづくり
防災・地域コミュニティー・減災都市基盤等
- ②市民の不安を解消し、これまでの暮らしを取り戻す
暮らし、健康・福祉・医療等
- ③自然への畏敬の念をもち、自然とともに生きる
産業経済、まちなか再生等
- ④未来のために伝統・文化を守り、人、新たな産業を育てる
教育、子育て、新産業創出等

○土地利用の基本的な考え方 -市街地部-

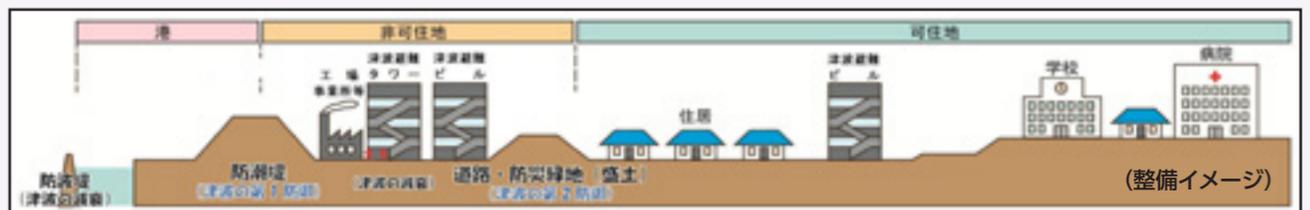
◇災害に強く安全安心でコンパクトなまちづくりのための土地利用



多重防御施設	完成区間	工事中区間	工事予定区間
防潮堤	■■■■■	■■■■■	■■■■■
河川堤防	■■■■■	■■■■■	■■■■■
高盛土道路	■■■■■	■■■■■	■■■■■
防災緑地	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■	非可住地		
■	街路(高盛土道路は除く)		

◇津波防御の考え方

二重の防御(堤防または高盛土道路等)で津波を減勢し、住居、学校、病院等を内陸側の可住地に配置



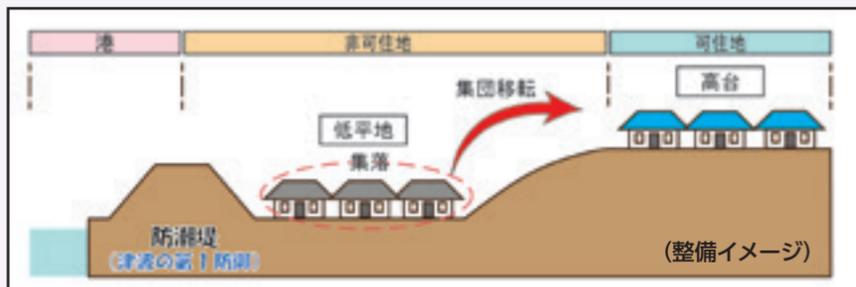
○土地利用の基本的な考え方 -半島部-

◇津波防御の考え方

津波の危険性の少ない安全な高台へ住居を集団移転

◇移転に伴う跡地利用

豪雨と満潮が重なっても冠水しない安全な地域とし、職の場として利用できる環境を創出する。



産業の復興

平成23年度			24	平成25年度			平成26年度				平成27年度				
11月	12月	2月	8月	4月	10月	12月	4月	7月	8月	9月	3月	5月	9月	3月	
街開設	つ店(屋街)いずれも仮設商店	牡鹿地域鮎川浜に「おしかのれん街」雄勝地域伊勢畑に「おが	石巻市初の復興推進計画※1認定	石巻立町復興ふれあい商店街(仮設商店街)開設	石巻地域鮎川浜に「おしかのれん街」雄勝地域伊勢畑に「おが	牡鹿地域鮎川浜に「おしかのれん街」雄勝地域伊勢畑に「おが	日本製紙石巻工場が震災前の生産能力を回復	桃浦地区にて、初の水産業復興特区(ブルーパ)補助認定	水産物地方卸売市場石巻売場工事開始						

※1)復興推進計画とは、税制・規制・手続きの特例等を受けるため、県、市町村が単独または共同して作成する復興についての計画です。平成28年3月末時点で12の計画があり、仮設商店街の存続期間延長、民間企業が立地する際の税の軽減等に活用されてきました。

被災当時

あらゆる産業で大きな被害が生じました。

○商業

旧市内の中心市街地および半島部雄勝・北上・牡鹿地区の商業の中心地が津波により大きな被害を受けました。

○水産業

石巻市内にある44カ所の漁港全てが被災、多数の漁船が損失しました。防波堤が多数破損・流出したほか、定置網や養殖施設がほぼ全壊。石巻および鮎川の魚市場が、いずれも壊滅的な被災を受け営業停止したことに加え、石巻漁港の後背地の水産加工団地が大きな被害を受けました。

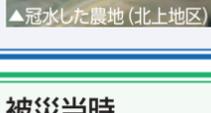


○工業

市内多くの事業所が被災、特に石巻工業港では、立地していた50企業全てが壊滅的な被害を受けました。石巻の発展を支えてきた日本製紙石巻工場も、全ての機能が停止しました。

○農林畜産業

1,771ヘクタール(市内の水田面積の約20%)が冠水したほか農業用施設248施設も被災。畜産業でも、牛、養豚、鶏等約252百万円の被害が出ました。



これまでの取り組みと復興の状況

店舗を失った事業者の働く場の確保と生活サービス機能の維持のため、仮設商店街を開設しました。水産業では、被災した漁港や設備の復旧を進める一方、壊滅的な被害を受けた石巻魚市場が、将来の海外輸出を見据え、HACCPに対応した高度衛生基準を満たす施設に再建され、また、魚市場の後背地に立地する水産加工団地の整備と復旧支援を進めました。

工業では、県が主体となって工業港の防潮堤・荷さばき地等の復旧を行い、また、日本製紙が石巻工場の復旧を進めました。

農業についても、県が主体となってほ場整備を進めたほか、市では園芸農業施設の整備にも力を入れました。また、新エネルギー産業の誘致・支援にも取り組んできました。

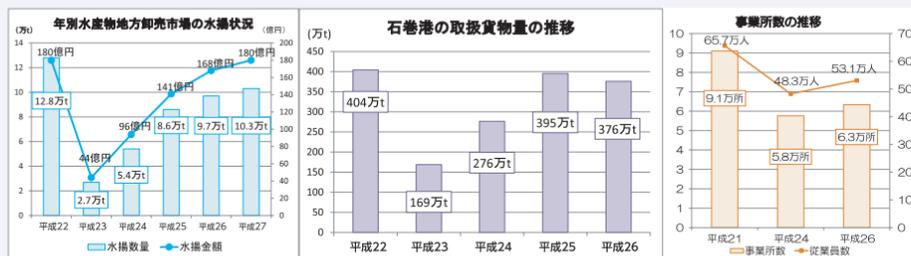


これらの取り組みにより、魚市場の水揚高は震災前の水準と比較し81%(平成27年12月末)、水産加工品売上高は75%まで回復(平成26年)。水産加工団地では58%にあたる120の企業が営業を再開しました(平成27年12月末)。

石巻工業港は震災前の96%にあたる48企業の企業が営業を再開。日本製紙も震災前の生産能力を回復し、完全復興を宣言しました。市内の事業所数は平成24年度から平成26年度までで570カ所(9.9%)増加しています。

農業では413ヘクタールの農地が冠水した大川地区では253ヘクタール(61%)で営農を再開したほか、蛇田・須江・大川地区に施設園芸団地が整備されました。

また、2カ所では太陽光発電所が営業を開始し、オランダの技術を取り入れた次世代型の大規模園芸施設が建設中である等、新たな産業の立地が始まっています。



これからの復興

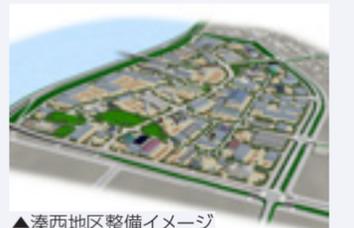
平成29年度までに、漁港の復旧整備と排水不良となった周囲の土地の整備とともに進め、特に半島部における職の場として再生されます。漁業の担い手不足に対する支援も行います。



市街地部では、平成28年度から新規産業用地として須江地区および不動町地区の供給が開始されます。また、平成32年度までに土地区画整理事業で災害危険区域地区内の3地区を産業用地として整備します。

これらの基盤をもとに、企業の誘致を進めていきます。合わせて、基幹産業である造船業の集約化支援等、既存の産業に対する支援を行う一方で、新規事業者への創業支援・6次産業化支援・地産地消推進の取り組みを推進します。

こうした取り組みにより、1次・2次・3次産業と新しい産業がバランスよく発展し、雇用が確保されるまちを目指していきます。



観光の復興

被災当時

主要な観光施設が軒並み壊滅的な被害を受けました。また、仮設住宅用地として使用するため、休止した施設もあります。石巻川開き祭りについても、平成23年度より規模を縮小して開催しました。

- ▶震災により被災
 - ・石ノ森萬画館
 - ・サン・ファン館
 - ・北上川・運河交流館
 - ・おしかホエールランド
 - ・雄勝インフォメーションセンター
 - ・雄勝石ギャラリー
 - ・雄勝硯伝統産業会館
 - ・網地白浜・渡波・十八成浜・荒浜・白浜の各海水浴場

- ▶仮設住宅利用のため休止
 - ・御番所公園
 - ・おしか家族旅行村オートキャンプ場
 - ・雄勝森林公園
 - ・にっこりサンパーク



これまでの取り組みと復興の状況

23	24年度		25年度		平成26年度		27		
8月	7月	11月	5月	7月	11月	4月	8月	3月	5月
川開き祭りを規模を大幅に縮小して実施	マンガイランド営業再開	石ノ森萬画館営業再開	金華山定期航路一部再開	網地白浜海水浴場営業再開	サンファン館営業再開	おしか家族旅行村オートキャンプ場営業再開	川開き祭りに孫兵衛船競漕復活	石巻の区間が編入	三陸復興国立公園に新たに気仙沼から



網地白浜海水浴場は、被災し使用できなくなったシャワーやトイレを改修。石ノ森萬画館は、再建の後リニューアルオープンしました。震災直後は規模を縮小した川開き祭りも、平成26年度から孫兵衛船競漕が再開し、徐々に震災前の形に戻りつつあります。

こうした取り組みの結果、市内観光施設・イベントの入込数は、徐々に震災前の水準を取り戻してきています。



これからの復興

貴重な文化を伝承する雄勝硯伝統産業会館やおしかホエールランドを復旧していくほか、環境省が整備する北上町浜地区および牡鹿地域鮎川地区のビジターセンターや三陸復興国立公園に含まれた金華山を自然体験の場として活用していきます。中心市街地には、旧北上川の堤防沿いに、生鮮マーケットを核とした、かわまち交流拠点を整備します。

同時に、復興を支援する著名なアーティスト等の招へい、スポーツイベントの誘致、被災地ツアーの企画・PR等に取り組んでいきます。

これらを通じて、地域の伝統と自然を守りつつ、それを活かして、震災前より内外の交流が増えていく、活気あるまちを目指します。

